

令和元年度 宮崎県立宮崎西高等学校・宮崎西高等学校附属中学校 学校評価 (自己評価および学校関係者評価)

学校経営方針	○生徒一人一人の潜在能力を引き出す学校 (未知の我を求めて) ○生徒があらゆる分野で日本一を目指す学校 (高い志の醸成と実現) ○国際社会で広く活躍する逸材を輩出する学校 (グローバル化への対応)	学校関係者評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。
本年度の重点目標	1 知力の向上 (進路の実現) 2 西高ブランドの確立 (学校の特色) 3 保護者・地域との連携 及び 保健・環境の充実 (学校の社会性、生命の安全) 4 附属中学校の充実 (知性・人間性・創造性の育成)	評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

重点目標	評価項目	取組	方策・手だて、結果の考察・分析及び改善策 など	自己評価	学校関係者評価	
						具体的意見
知力の向上	1 さくら手帳*1 やコーチングブック*2面談を活用し、自ら学ぶ生徒を育成する。	・生徒自らが、行事予定の確認および授業や行事等の振り返りにさくら手帳の活用を行う。 ・クラス担任が、生徒理解や支援の手立てとしてコーチングブックの活用を行う。	・さくら手帳は、高1生のみ全員購入、他は希望者購入とし、毎月1回、朝の読書の時間を10分間もらい、行事予定と各種記録の記入指導を行った。次年度からは、振り返りに特化した手帳を作成し、全員購入させて活用していきたい。 ・コーチングブックは、各クラス担任が日々細かくコメントを記入し、生徒理解や支援に役立てることができた。特に、高3生の心理的なフォローに有効であった。	3	3	○次年度から自己の振り返りに特化した手帳に移行するという事で、手帳の教育的効果を高めるための検討と更なる工夫がなされている。
	2 授業改善及び教科指導力向上を図る。	・教科指導研究会を実施し、授業改善を行う。	・年3回の教科指導研究会を設定し、研究授業や研究協議を通して、新共通テストや新学習指導要領をテーマに各教科での研修の機会を設けることができた。さらに、主体的・対話的で深い学びに向けた研修にレベルアップしていきたい。	3	3	○新学習指導要領では学力観が知識中心から資質・能力中心へと大きく転換しており、高等学校の授業がそれに合わせたものになることが期待されている。先生方のより主体的で継続的な研修を期待します。
	3 読書活動・小論文・英検・各種コンクール等の充実を図る。	・適正な図書選定を行い、朝の読書活動の充実を図る。 ・国語科と協力し各種コンクールに応募させる。 ・小論文指導の市販教材を活用して、表現力の向上を図る。 ・英語民間試験活用に備えて計画的な受検・資格取得を促す。	・副担任を中心とした指導もあるが、ほとんどの生徒が静かに読書をする習慣ができた。しかし、まだ完璧といえないので職員の協力を仰いで更なる充実を目指したい。 ・蔵書構成を考えた図書資料購入ができた。 ・応募したそれぞれのコンクールで上位入賞する生徒がいた。 ・小論文指導は、土曜講座が上手く使えなかったため、夏季・冬季課外に組み込んで実施した。事後講演会を実施してフィードバックができた。 研3 ・2020年度からの英語民間試験活用に備えて、民間団体からの正確な情報収集と生徒・保護者への迅速な情報提供に努めた。結果として見送りとなり、振り回された形となったが、大きな混乱は招かずに済んだ。進3	3	3	○民間試験活用への対応は大変だったと思います。
	4 国公立大合格 300名(現役250名)を目指す。	・校内のテスト(課題テスト・チャレンジテスト)や対外模試等を活用し、学年や本校全体の特徴を把握し、弱点の補強や強化に努める。 ・学習内容の早期の履修完了と定着の両立に努める。 ・きめ細やかな学習指導や面談を行う。	・各学年で学力検討会を年3回、加えて高校3学年は、新旧担任引き継ぎ会、進路検討会、出願校検討会・報告会等を行い、学力の把握と伸長のための工夫に努めた。また、各教科・科目では、新共通テストに向けて試行テストの分析を行った。 ・課外については希望届出制を導入するとともに、出前講義を利用したり、希望講座制を取り入れたりしながら課外の内容の充実を図った。 ・大学入試の多面的評価導入に対応するため、Classiを導入し、ポートフォリオの蓄積・デジタル化を行っている。 ・年間5回の面談期間を設定・実施し、学級担任・教科担任のそれぞれの立場からアドバイスや励ましの言葉を掛けながら生徒の変容を見逃さないように努めている。	3	3	○数値目標は、生徒のニーズに沿っているものであることがわかりました。 ○西高と宮崎市内の県立進学校との指導の違いを感じ、兄弟であっても進学先を変えさせる保護者がいることも知ってほしい。
西高ブランドの確立	1 西高ならではのSSHに挑戦する。	・定期的なSSHミーティングや職員研修を行う。 ・先進校視察や各種研修会に参加し、情報収集に努め、次年度以降の構想を整備する。	・SSHに向け、教育課程、教育プログラムの検討、西附の「感性・探究・サイエンス・プレゼンテーション」の総合的研究を行い、次年度のカリキュラムを作成することができた。	3	3	○学校の教育目標や生徒のニーズや実態をふまえた学校独自のカリキュラム作成は、効果的な教育を実施していくために重要だと考えます。今後もそのような努力を期待します。 ○西高ブランドという意識は、生徒たちとの交流の中での対応の様子や、彼らの態度から少しずつ定着していることを感じる。 ○今後も、保護者の意識も含めてさらに高みを目指してほしい。

	2	理数科の育成充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 各種大会やコンテストへの参加を推進する。 学習会や難関大講座の実施と参加の促進を行う。 講演会や大学・研究施設の訪問等を促進する。 西附中途の連携や理数科生集会による異学年交流を通して、縦の繋がりの強化を促す。 新理数科課題研究に向けての始動 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度も科学の甲子園、科学系オリンピック予選、プログラミングコンテスト、英語ディベートなどに多くの理数科生が参加した。 5月と9月の3年生対象学習会は外部講師の授業を含め、生徒の期待に添う内容であった。3月の1年生対象の講座は外部講師による講演会を含め、計画通りに実施予定である。また、高校3年生だけでなく、2年生後期からの難関大講座も順調に進めている。 理数科講演会や東大研究会(夏・春)および施設訪問に多くの生徒が参加し、生徒の学習意欲の向上や進路選択に役立っている。同時に「東大/医学部医学科(の良さ)を語ることでできる教員」の資質向上研修が必要である。 九州大学未来創成科学者育成(QFC)2名、東大グローバルサイエンスキャンパス(UTGSC)1名合格し、受講完了。 生徒が企画運営する理数科生集会では、委員長会議において、それぞれの学年クラスが抱える問題点を知る機会にもなっている。 今年度入学生(46期)より課題研究を課題解決型から個人研究型に変更。情報処理の仕方を学び、高度数的処理ができるよう取り組んでいる。 	3	3	<p>○生徒の可能性にふたをしない、きめ細かな指導がなされていると感じます。</p>
	3	普通科の育成充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 普通科を理数科と切磋琢磨させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 普通科の理文クラスは講演会等について、できるだけ理数科と一緒に参加することで目的意識を高め、より高い目標を持たせるようにした。 理数科・理文クラス教科指導研究会を年に2回実施し、教科担当者の教科指導力のレベルアップを図った。 高3では、理数科・理文クラス特別講座として、難関大合格に向けた学習会を実施した。 	3	3	<p>○普通科へのアプローチがしっかりとされていると思います。</p> <p>○きみろんや3年生ポスターセッションなど、全校的な取組として実施している点が良いと思います。</p>
	4	部活動を奨励する。	<ul style="list-style-type: none"> 礼節や規範意識を育成する。 文武両道の理念のもと、合理的かつ効率的な活動を実践する中で、一人一人の潜在能力を引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に部活動生集会を開き、その都度、部活動の意義や目的を再確認させ、合わせて部室の管理や環境整備についても注意喚起を行った。本年度は、生徒自らが部活動体験を語る場も設定した。 中高の文化部・体育部ともに素晴らしい成果を収め、表彰式では本年度も多くの生徒が表彰された。また、部活動以外にも、昨年に引き続き全国男子駅伝の中学生区間に出場した生徒や、国際数学オリンピックイギリス大会で銅メダル、国際情報オリンピックアゼルバイジャン大会で銀メダルを獲得した生徒がいたことは特筆すべきことであった。 今年度の部活動加入率は附属中91.7%、高校81.3%であった。来年度も中高とも80%超えを目指したい。 	3	3	<p>○文武両道を目指して、積極的な取り組みがなされ、すばらしい成果を収めていると思います</p>
	5	東大合格二桁、九大50名を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 東大オープンキャンパスツアー(高校1年生対象)や東大研修会(高校2年生対象)、九大オープンキャンパスツアー(高校2年生対象)を実施し、意識喚起を図るとともに同じ目標をもつ集団づくりをする。 超難関講座、難関講座等を通じて、学力のレベルアップを図るとともに、個別添削によりきめ細やかな指導を行う。 校外で行われている医師体験や講演会、研修会等への積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校2学年の超難関大志望者については、1年次からの継続で、年度初めから指導することができた。高校3学年の超難関大志望者については、年間を通して計画的に指導をすることができた。超難関大学志望者に対する指導の流れが継承され、定着してきている。 理数科の教科担任会等を通じて、超難関大学入試分析会等で得られた情報の共有を図るとともに、各生徒の学力バランスを把握し、指導に活かすことができた。 東大・京大の前期試験出願者は8名+11名(昨年度は15名+5名)、九大の前期試験出願者は26名(昨年度は36名)、国公立医学部医学科前期試験出願者は29名(昨年度は28名)であった。 「第一志望を貫かせる」「本気にさせる」ための仕掛けと支援のさらなる工夫が必要である。 	3	3	<p>○評価指標の具体的な学校名等は、生徒のニーズに基づくものであるかどうか大切です。</p>
保護者・地域との連携及び保健・環境の充実	1	学校のPR活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学校案内パンフレット・DVD作成やHP・フェイスブックの更新による情報発信を行う。 中学校訪問、中学校対象説明会・学習塾対象説明会を実施する。 在校生主体の高校オープンスクール、中学校説明会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校案内に重点を置き鮮度の高い情報発信に努めた。次年度は研究部と連携を深め、学校の教育活動に関するHP上の情報発信に努める。 管理職と連携し各種行事を円滑に運営することができた。また、学習塾へ定期的に訪問し情報の共有を図った。今後も丁寧な説明に努め、信頼関係の深化を目指していきたい。 中・高200名を超える生徒実行委員の協力により大変有意義なオープンスクールを実施することができた。在校生の生の声を届け参加された小・中学生とその保護者に本校の魅力を発信することができた。また、簡易クーラーと飲料水を準備して熱中症対策を十分に行った。 	3	3.3	<p>○DVDの内容が新しくなっていました。</p> <p>○HPも刷新され、PR活動の充実が見られました。</p>
	2	PTA活動による学校支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> PTAによる登下校時の交通立ち番指導を行う。 各種委員会の活動の充実をはかる。 会員への情報を発信し、連携に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年委員会により、登下校時の交通立ち番指導を行い、生徒の交通安全に関する意識の高揚に努めた。 父親委員会では、進路指導部と連携の下、保護者による職業講座「YUME講座」を実施することができた。母親委員会では、講演会や座談会を企画し、研修を深める活動ができた。また、広報委員会では編集会議を重ね、学期ごとに広報誌の発行を行った。 携帯メール通信の活用回数は増えた。今後、登録者数の増加に繋がる手だてが必要である。 	3	3	<p>○継続して交通立ち番指導を行い、交通安全に関する意識高揚に協力してもらいたい。</p> <p>○学校や保護者の取組を学校と直接関係のない地域の方々に見える形で実施できていることは大切だと思います。</p> <p>○いろいろと大変な時世であるが、今後も三位一体となって、安全対策を講じられたい。</p>
	3	命を大切にす教育の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 命を大切にす週間の指導の充実を図る。 健康講話や、性に関する指導、薬物乱用教室等を実施する。 交通マナーアップ運動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に、命や自他を大切にす意識を高める指導を行うことができた。 交通安全教室の実施、集会等での呼びかけ、保護者・職員による朝夕の立番指導を行い、交通安全に対する意識の向上を図った。 	3	3	<p>○最近の様子として、スクランブル交差点での自転車通行の様子が大きく変わりました。車両信号で通</p>

	4 耕心*3の徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動の徹底を図る。 ・安全点検の実施（年3回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会で校内清掃活動状況を見回り現状を把握し担当職員と打ち合わせを行い改善を図った。美化便りを発行し耕心の心得を確認した。 ・全校集会などで校内美化についての現状を生徒に伝え、主体的に美化活動に取り組みめるように啓発活動を実施した。 ・校内の環境安全のために生徒にも安全点検に参加してもらった。 	3	3	<p>行する高校生に地域住民も慣れたようである。中学生は、自転車を降りて慎重に渡る様子が見られます。</p> <p>○保健面では、安心・安全を優先するために、学校内外での生徒諸君、職員各位、そして保護者各位の心身の安寧が求められると思う。</p>
	5 教育相談による生徒支援を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年ライフスキル学習を実施 ・毎週教育相談委員会の中で不登校生徒の把握と対応の検討 ・年3回の教育相談アンケートを実施 ・本校に実態にあった職員研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフスキル学習を1,2学期に実施できた。 ・時間割に教育相談委員会を位置づけ、生徒の現状の共通理解、支援方針について検討を行った。 ・相談アンケートをもとに、面談指導を実施できた。 ・発達障害をもつ生徒の理解のための職員研修会を1学期に実施できた。 ・スクールカウンセラーの拠点校となり、スクールカウンセラーの活用や発達支援センター、支援学校等との連携が図れた。 	3	3	○外部機関との連携などが図られ、全校で特別支援的な体制づくりに力を入れていることがうかがえます。
附属中学校の充実	1 知性を育む授業を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導や高校教員による授業を充実させる。 ・授業力向上のための研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語科においては3学年とも中学籍、高校籍の教員が協力しながら少人数授業を行うことができた。今後は、中高のそれぞれの担当教員の持つ力を十分生かす連携ができる仕組みを工夫する必要がある。 ・数学科においては、すべての学年で少人数授業を行った。きめ細かい指導を行うことにより個々の生徒の習熟に対応した指導が出来、ここ数年課題となっている高校進学時における学力差を作らない授業を行うことができた。しかし、従来行っていた習熟度によるクラス編成を止めたことで上位層の指導に課題が残っており、指導法の工夫、改善が望まれる。 ・県教育委員会義務教育課による2度の支援訪問を実施し、中学校職員全員の授業力向上のための取組を行った。 ・高校教員とともに教科指導研究会に参加し、東京大学などの入試問題の研究や西校チャレンジテストの作問検討会を通じて指導力の向上に努めた。 	3	3	○附属中学校における四つの分野の取組が定着し、成果も上がっているようで、今後の成長が楽しみです。
	2 人間性を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実や基本的生活習慣の確立、面談を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の指導方法や評価方法についての研修を行い、学年に応じて計画的に実施することができた。 ・学期に1回の学校生活アンケートで生徒の悩みを把握し、2者面談を通して生徒の心のケアを行った。 ・長期休暇を利用して、三者面談を希望者対象で実施し、保護者や生徒の思いを把握するとともに、今後の学校生活や学習面へのアドバイスを行うことができた。また、3年生については理数科オリエンテーションの後、全世帯を対象に3者面談を実施し、進学にすると当たった不安の解消や高校入学までの生活及び学習上の留意点について相談を受けた。 ・夏季休業中にアフリカ(ザンビア)で医療活動に従事しておられる、本県出身の山元香代子医師を招いて講演会を実施するなど、身近な存在の中に世界で活躍する人がいることを伝え、他者のために行動することの大切さを教える機会を設けることができた。 	3	3	○教科の学習で身につけた学力を将来どのように活かしていこうとするのかを考えるような教育も大切かと思えます。そのことが、人間性を成長させていくことにもつながると考えます。
	3 特色ある教育活動を推進し、創造性を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・感性*4・探究*5・プレゼンテーション*6・サイエンス*7の内容を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感性においては、国語科の分野で「短歌の世界に触れて」、「古典に親しむ」、社会科の分野で「平和を語り継ぐ」、「消費税について考える」、「落語に親しむ」などの学習で外部講師を招き、専門的な知識に触れることで感性を育むことができた。 ・探究においては、中1での青島巡検や中2での綾照葉樹林の植生調査、中3の種子島屋久島体験研修などを通して、宮崎県および南西諸島の植生を学ぶとともに、自然環境への関心を高めることができた。また、種子島屋久島研修ではJAXA種子島宇宙センターを訪問し、最先端の宇宙科学を直接見聞する経験をした。 ・プレゼンテーションにおいては、本校ALTを活用し、外国語で表現する学習を充実させ、修学旅行でのインタビューやEnglish Day*8で身に付けた表現力を発揮することができた。 ・サイエンスにおいては、身近な疑問を数学で解いたり、仲間と協力して難問に取り組んだりして数学への興味・関心を高めることができ、数学オリンピックに意欲的に挑戦する生徒が増えた。 ・日伊協会市民フォーラムに参加し、講演会とポスターセッションを行い、中高生の研究発表において、3名が受賞した。 	3	3	○生徒をどのように伸ばすのかという視点から、様々な工夫を盛り込んだ実践がなされていると思えます。
	4 3年生80名全員の理数科進学を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導やキャリア教育を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理数科進学オリエンテーションを行い、理数科主任が話をしたり、授業参観させたりすることで、理数科進学後の学習や生活に対する意欲を高めることができた。また、3年生全員を対象の三者面談を行い、理数科進学の意志を再確認して、高校進学の意識付けを図ることができた。 ・探究や感性や外部講師による講話では、キャリア教育的視点に立った話題を必ず入れることを依頼した。10月には、宮崎日伊協会の協力で、イタリアのカリアリ大学教授による講演会を行い、その中で外国人のキャリアについての考え方を学ぶことができた。 ・学級活動の進路学習では、大学の学部や学科等について調べさせることで、将来の大学進学に向けての意識を高めさせることができた。 ・中学校の授業を多くの高校籍の教師が担当しているため、理数科進学後を意識した指導や話題に触れることが効果的と考える。 	3	3	○中学校卒業後は、高校から入学してきた生徒との交流、切磋琢磨により、未知の自分を求めて、自己実現に向けて努力されたい。

*1 さくら手帳：日々の授業や部活動のポイントを記録するノート。また、宿題やレポートの締め切り、試験の準備、練習試合といった日々の時間管理や今日の目標を明確にし、自己マネジメント力を向上させるための道具

*2 コーチングブック：クラス担任と生徒たちのコミュニケーションの道具。生徒の進路支援や体調管理・学習支援のための送受信機能的機能を持つ。保護者とはコメント欄を通じて情報交換ができる。中学校ではデイリーライフとよんでいる。

*3 耕心：無言で行う清掃活動。自ら心を耕し、心を磨くという意味を込めて、自立心、自問心、愛校心を育むために平成18年から始まった。

*4 感性：古典や詩歌の世界や地域・郷土について学ぶ学習等をとおして、豊かな人間性を育み、感性を磨く。郷土への誇りや、郷土を主体的に捉える感性を培い、郷土の未来と国際社会における自分の生き方を考えさせ、社会に貢献しようとする態度を育てる授業。

*5 探究：科学分野の学習。問題を解決する力や、実験データのまとめ方や、考察の仕方を身に付けさせる。フィールドワーク体験により地域の自然環境への興味・関心を高める。大学の先生を講師とする授業により先端の技術や研究にふれさせる授業。

*6 プレゼンテーション：今後の社会で必要となる英語を自由に活用する力の育成を図るとともに、外国語を理解し、外国語で表現する基礎的な能力を養う。また、言語や文化に対する関心を深め国際理解の基礎を培う授業。

*7 サイエンス：教科書では扱わない問題に取り組むことで数学への興味関心や問題解決力を育成する。また、科学の分野で数学を活用する力の育成を図る授業。

*8 English Day：中学3年生が生目の杜遊古館で実施する、これまでの英語の学習の集大成として1日中英語のみで活動する取組。本年度は12月に実施した。10名のALTと共に交流会やゲーム、本格的なディベートを行った。